

地域密着型サービス評価の自己評価票(2号館2階)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様が安心して生き甲斐を持った生活が出来るように入居者様の人格を尊重した主体的ケアを取り入れた理念を作り上げています。ホーム内に掲示して、家族の方にも説明してあります。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、管理者・職員が常に理念を熟読し実践に向けた取り組みを行い、年間目標を組織的に取り組み各ユニットごと月間目標を作成しケアの向上に努めています。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	町内会に入って地域交流を深め、地域に理解されるようコミュニケーションを密にしている。運営推進会議にはご家族様1名、常会長1名民生委員2名参加して協力を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人たちに、気軽にボランティアに来て頂いたり、行事等に来て頂けるように声掛けしております。また利用者様は、近くのスーパー等買い物に出かけることによって、近所の人と顔見知りになり、お互いに気軽に声を掛け合って世間話が出来るように工夫しております。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会、老人会、保育園、幼稚園の行事等に参加し積極的に地域の人達と交流を深めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に老人会長に参加してもらい、ホームの芋煮会に参加を呼び掛けていただき、地域の老人会の皆様と交流を図っています。又、一人暮らしの高齢者の皆様を尋ね、困っている事、不自由な事を聞き、親交を深めながら役に立てるように取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし職員間で話し合いを持ち、入居者様がより良い生活ができるように改善を行い、最善の努力に向けた取り組みを行なっています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見に対しては、職員間で検討を重ね、サービスが向上出来るように活かしています。入居者のQOLを高める為に活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほかに、市グループホーム連絡協議会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講演会や研修会等に積極的に参加し、その都度必要な人に活用できるよう支援しています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を受け、家庭や施設で起きる事のないよう防止し、職員間で言葉の暴力等のないようお互いが工夫をしています。	○	フローア会議、職員会議等で言葉使い態度等その都度虐待について確認しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にパンフレットによる説明を行い、契約時に重要事項に記載された事に対し納得が行くように説明を行い理解の上記名・押印を受けている。(不明な点は、随時説明に応じている。)	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情等は、常に謙虚な態度で聞き、フロアー会議、職員会議で議題に乗せ適切に対応出来るように十分話し合いを持っています。又、市グループホーム連絡協議会でその都度議題を提供し意見交換を行なっています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、写真入で「ひまわりだより」の広報誌を発行し、行事やドライブに出かけた事やホームでの生活状況、健康状態等が分かるように工夫をしご家族様に配布しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に利用者様の状況をお知らせすると共に、ご家族様より何か意見・苦情等がないかを尋ねたり、意見・苦情箱を玄関に置いています。意見・苦情等は職員間で話し合いをし、検討を重ねより良いケアを目指しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議、職員会議等で意見を出し合い、提案を聞く機会を設け、反映させています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の安全を確保する事を第一に考え、必要な時間帯に職員を配置できる勤務体制が取れる工夫を行い、勤務の調整に努めています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様が不安のないよう職員の異動は最小限にとどめ、離職した事は伝えない事としています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講演会等には積極的に参加して、現場で活用出来るようにしております。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	検討中	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦をかね食事会や忘年会などを行なっております。職員全体会議も月1回実施しております。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員とコミュニケーションを多く取る機会を設けるように努めています。また年2回人事考課を行い、自己評価したものを管理者および運営者で正当に考課しております。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査を行い、面談等で本人や家族から情報を収集し、今望んでいる事・今してほしい事を聞き、アセスメントを行い、課題を明確にし、センター方式にて記録しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前調査、入居時の面談等で家族・本人が何を望んでいるのか・何に困っているのか・どのような事を希望しているのかを情報収集し、納得の行く介護が出来るよう、援助しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の健康状態、生活状況を把握し、今のような社会資源を求めているのかを良く聞きアセスメントして対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他の入居者様との相性を判断し、また場の雰囲気に馴染み環境に慣れるよう2～3日体験してもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が今まで経験してきた事、出来ることを生かし、季節の料理等考えて頂いたり、相談相手になってもらったり、経験を活かしたQOLの向上に努めお互いに支え合える関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付している「ひまわりだより」で入居者様の生活・健康状況等を報告しています。又、面会時・敬老会等に家族等に入居者の様子や家族の状況報告を行い、話し合っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時に、よい関係が築いて行けるように各々の居室にてお話しをさせていただいております。ケアプランの説明時に家族が何を望んでいるか、本人・家族がお互いに感謝の気持ちを持つことが出来るように援助しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰が面会に来ても良いように部屋で、ゆっくりとくつろげる時間を設けたり、月に1回ドライブに出かけたりして人や場所との関係を大切にしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が協力し合い、日常生活の中でお互いが助け合い、関わり合い、支え合えるように努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者が他の施設(特別養護老人ホーム等)に移った場合、時々入居者に面会に行き、忘れた物を届けたりして関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には使い慣れた家具やテレビ等、馴染み深い物を置き、自分なりの生活の場所になるように支援しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して、今までどのような生活・人生を歩んできたかをアセスメントし、入居者の人権を尊重して、サービスを提供できるようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自分のペースに合わせ、また体調や気分を考慮し、落ち着いた生活が送れるように、一人一人の生活スタイルを把握しその人らしい生活出来るように工夫しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の生活環境シートを利用し、入居者がより良く生活をして行く為に、ケアプラン立ち上げシートを作成し、馴染みのある暮らしを継続できるように支援しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントを行い、ケアプランの見直し評価を行い、フロア会議やカンファレンスを開き、その都度関わり方や援助方法を検討しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録を基本にし、身体状況や生活状況、ADL等も記録しています。又、業務日誌の個人の経過記録の前にケアプラン表をはさみ、常時確認し記録しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の生活のリズムを尊重し、自分のペースで生活が出来るように配慮しています。家族の希望に沿い、外泊・外出は自由で何ら制限を設けていません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察の巡回をお願いし、消防署には、消防訓練や救急講習受講等を行っていただいております。また、ボランティアの協力を得ながら市の行なう高萩祭りや盆踊りに参加し、安全に暮らせるような体制を整えています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市のグループホーム連絡協議会に参加し、入居者や家族に対して他のサービス利用をどのように行なったら良いかを話し合い、本人や家族の意向に沿えるように体制を整えています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、擁護委員に参加をお願いしております。又、市内グループホーム連絡協議会等で、協働して生活の質の向上を図っています。	○	運営推進会議、グループホーム連絡協議会等に地域包括センターの方に参加して頂き協働しています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医師による治療を大切にしています。入居者や家族が希望すれば主治医以外の医師に診察を依頼することが出来るように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者に対する認知症に関する相談をその都度行い、適切な指示を頂き、入居者が安心して治療を受けられるように支援しています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームには3名の看護師が配置されており、入居者の心身の変化や異常発生時には迅速に対応出来るようになっていきます。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時は、管理者が何度か見舞いに行き、健康状態の情報等スタッフに尋ね早期退院へ向けた相談を行っています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については家族に説明を行い、入居者及び家族の意向を十分に尊重し、かかりつけ医と連携を取りながらチーム全員で一丸となって支援にあたるようにしています。	○	家族の方針が優先しがちであるが、本人の尊厳を第一に考えられるよう関係者と密に話し合いを行い全員で方針を共有しています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の入居者がより良く暮らして行けるよう「出きる事・出来ない事」を良く見極め、かかりつけ医と十分に連携を取りながら、今後の変化に備えてチームとしての支援に取り組んでいます。	○	一人一人のターミナルケアがあるので、入居者の心の痛みを緩和出来るように家族・兄弟・親戚・友達等あらゆる人の助けを得られるよう取り組んでいきたい。(食事・環境・外出・外泊・牧師さん、ボランティア)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が現在の生活を維持して行けるように健康状態・生活状況等を十分に話し合い、情報交換を密に行い住み替えによるダメージを防ぐことに努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理を徹底し、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に心がけています。実習生に対しては、オリエンテーション時に個人情報保護について説明しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者が自分の思い通りに生活が出来るように希望する飲み物・食べ物等を献立に加えたり、入浴準備も自分の着たい物を選んで頂き、自分の意志で生活が出来るよう支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせて、入居者が自分のペースを大切に、心身共に落ち着いた生活が送れるように工夫しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の好む服装を着て頂き、また、時と場所に応じた身だしなみに気を使っています。又、季節に応じたおしゃれを楽しむ工夫を行い、本人が望む美容院へ行けるよう支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物・好む物を記入してもらい、職員と入居者が相談しながら、食材・調理方法を工夫し会話を楽しみながら家族的な雰囲気の中食べる楽しみを持てるよう心がけています。又、スタッフもテーブルで食事を共にしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	月に1度季節の催し物や誕生会を行い、好みの物や手作りのケーキを提供しています。おやつ等は食べたい物を作ったりしています。タバコを吸いたい人は健康状態を考慮し、毎食後お茶時間が後に提供しています。お酒は特別な行事の時だけ、嗜好は柔軟に対応しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は排泄の誘導、声掛け介助を行、い失禁パンツで対応しています。夜間は入居者の状態に合わせてオムツ・失禁パンツなどに使い分けを行い、排泄リズムを把握し適切な援助ができるように心がけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望に合わせて湯加減、入浴時間を考慮し時間帯を考慮しています。	○	夜間の入浴を行っていないので、夜間入浴は何故出来ないのか話し合っ、出来る時行なうよう常に検討しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前・午後とラジオ体操やリハビリ体操動くレクリエーションや歌等を取り入れ夜間安眠できるよう工夫しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に合わせて、下善や食器拭き・床のモップ掛け・洗濯たたみ等個人の得意な事をしていただいております。お互いに協力し合い、入居者同士話ができて、張り合いのある生活を送れるように援助しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の現金に関しては、状態に応じ本人が管理しています。できない場合は家族と相談し事務所で預かり、現金出納帳を作成し、使用時はその都度家族に報告しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月行なわれる行事の中でドライブや散歩を取り入れ、戸外の空気を吸い、気分転換を図った支援をしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他の会場を貸りて敬老会やクリスマス会等を行い、家族と共に一緒に過ごす事が出来る機会を作る支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が日常的に電話や手紙のやりとりができ、家族や知人と交流が常に出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の面会時間等制限なくいつでも面会ができ、気軽に居室で過ごせるようにしています。又、家族が宿泊することも可能です。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、常に職員が熟読し、拘束について正しく理解され、心身的・精神的拘束を行なわないケアをしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホールに1名のスタッフがおり、入居者の所在、状況確認を行い、玄関にはセンサーを配置し、ブザーで知らせるようになっています。夜間以外は施錠せず、見守りに徹しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にホールにはスタッフがおり、入居者の様子や所在が確認できます。居室も時々訪室し一人一人の様子を常に把握しています。夜間も時々巡視を行い、安全の確認を行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	喫煙の為のライターは職員が預かり、裁縫のハサミは本人が一時持っている場合があります。注意の必要な物品に関しては、保管場所・管理方法を取り決め実行しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対応マニュアルがあります。事故発生時、事故報告書を作成し職員間で事故内容を分析し事故防止対策を講じます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の指導の下、緊急救命の訓練を行い、急変時の事故発生に備えています。緊急時応急処置マニュアルを作成し、随時対応出来るようにしています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、緊急救命の訓練を行い、急変時の事故発生に備えています。緊急時応急処置マニュアルを作成し、随時対応出来るようにしています。消防署指導の下防火訓練を実施し入居者が安全に非難出来る方法を取得し、地域の人々の協力を得られるように働きかけています。	○	市からも災害時の避難方法の指導を受け食糧等も数日分備蓄しています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクを面会・カンファレンス等において説明し、レベル低下を防ぎ、ADLの維持向上に向けた対応を常に検討しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎回のバイタルチェックを行い、体調の変化を把握し日常生活の中で常に観察を行い、異常の変化に速やかに気が付けるように努め、看護師に相談し協力病院の受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、用量を薬局から説明を受けその薬の目的や副作用などを把握しています。服薬後症状の変化の観察を行なっています。薬の説明書個人のファイルに綴り、誰もが確認出来るようになっています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝コップ一杯の牛乳や水分を提供し、体操などを取り入れ、食物繊維を多く摂取できる食事を考えています。排便誘導を促すように努めているが、どうしても頑固な便秘は病院に相談しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝は歯磨きを励行し、毎食後口腔ケアを行なう支援をし就寝前は入れ歯のケアを行い、常に口腔の清潔に努めています。朝・夕口臭予防の為にレモン水で口をうがっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を作成し、1日の摂取カロリーを把握し、毎食後食事摂取量のチェックを行っています。水分量もチェックし1日の総水分量を記録しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成して、衛生管理を徹底し、常に手洗いを励行して感染予防に努めています。入所前に感染症等の有無の確認をしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎回使用後熱等消毒を行います。又、食器・コップ類は週1回漂白剤にて消毒を行い、冷蔵庫は週1回除菌消毒を行なっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にお花でいっぱいになったガーデニングを飾り、家庭菜園などを楽しんだり、洗濯物を干したり、自由に散歩が出来るようにしたり、近隣の人々や家族の方が安心して出入り出来るように工夫しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとくつろげる和室があり、台所が対面式キッチンなので、いつでも見渡す事ができます。その月々に応じ果物やお花等や絵を制作し飾ったり季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で気の合った入居者同士で過ごしています。また、ホールにソファ・椅子を置き、ゆったり、自由に過ごす事が出来る場所を確保しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今まで使用していた家具やテレビ等希望にそって置き、従来の生活環境からかけ離れたものにならないように支援しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレや居室・ホールの換気をこまめに行っています。また温度調節は外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者に合わせて調節を行なっています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室等はバリアフリーになっていて、車椅子自走者など入居者の身体状況に配慮した安全・安心な環境になっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	得意な事・したい事等積極的に行なえるように声掛けし、日常生活の中で自立して暮らせるよう支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物や布団を干したり、日光浴・喫煙・歌を歌うなど多目的に利用しています。建物の外周はいつでも散歩ができ、ベランダへの出入りはいつでも自由に行けるようになっています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、毎日、レクリエーションやリハビリ体操、歩行訓練等を行い、筋力向上や日常生活の活性化に向けた取り組みを行なっています。
- 2、敬老会を結婚式場で行なったり、クリスマス会を国民宿舎で行なう等、ホテルの料理が食べられる事はとても入居者様は喜んで下さっております。